



# 青森農研フラッシュ

(地独)青森県産業技術センター・農林部門

研究成果

## ぶどう「べと病」の被害軽減と

## 耐性菌に配慮した新しい防除体系

りんご研究所

近年、ぶどうの主産県ではストロビルリン系薬剤に対して耐性のあるべと病菌が確認されており、本県でも耐性菌発達の回避が重要な課題となっています。そこで、新系統のべと病防除剤であるライメイフロアブルの実用性を明らかにし、**ストロビルリン系薬剤の使用場面を1回削減した防除体系**を確立しました。

ぶどうのべと病とは

- ・本県の主要品種では、「スチューベン」や「サニールージュ」で発生しやすい。
- ・葉裏に雪白色のかびが密生し、後に黄変して落葉する。
- ・果粒は青鉛色～紫褐色に変色して脱粒する。
- ・雨が多い場合や、水はけの悪い園地で発生しやすい。



葉の症状



果房の症状

「落花直後」からのべと病の防除体系

注)青字は新系統の薬剤

赤字はストロビルリン系の薬剤

ストロビルリン系薬剤の使用場面を**3回から2回**に減らすことができる

月	旬	散布時期	新しい防除体系(平成26年)	これまでの防除体系
6	下	落花直後	基準薬剤 + <b>ライメイフロアブル</b> を散布	<b>アミスター10フロアブル</b> を散布
7	中	大豆粒大(7月中旬頃)	ジマンダイセン水和剤、 <b>アミスター10フロアブル</b> 、 <b>ストロビードライフロアブル</b> 、 <b>ホライズンドライフロアブル</b> のいずれかを散布	
8	上	8月上旬	<b>アミスター10フロアブル</b> 、 <b>ストロビードライフロアブル</b> 、 <b>ホライズンドライフロアブル</b> のいずれかを散布	

期待される効果

ストロビルリン系薬剤の使用場面を 1 回削減



べと病の耐性菌発達の回避

お問い合わせ

りんご研究所県南果樹部 (Tel.0178-62-4111)